



国分寺市における巡検の様子
(2017年7月2日 橋爪孝介 撮影)

地理空間学会ニュースレター

TOPICS

- ・第9回総会報告
- ・2016年度学会賞受賞者コメント
- ・第10回総会報告
- ・2017年度学会賞受賞者コメント
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(児玉恵理)
- ・寄付お礼

JAGS

第9回総会報告

日 時：2016年6月18日(土)

場 所：筑波大学筑波キャンパス 1D201

出席者：53名

呉羽正昭庶務委員長の開会の辞のあと、小口千明会員を議長、橋爪孝介庶務委員を書記として選出し、総会を開始した。

I 会務報告について

山下清海常任委員長より会員数(2015年6月8日現在、343名)、第8回大会の開催、第19～20回例会の開催、機関誌「地理空間」第8巻1～2号の刊行、ニュースレター(第22～24号)の発行、ホームページおよびメーリングリスト(jags-ml)の運営、日本学術会議協力学術研究団体の認定(2013年9月24日)、および2016年度学会賞について報告があった。会務報告に関して質問・意見はなかった。

[地理空間学会学会賞]

【学術賞】

久保倫子

受賞対象：久保倫子『東京大都市圏におけるハウジング研究—都心居住と郊外住宅地の衰退—』古今書院、208p., 2015年3月。

秦 洋二

受賞対象：秦 洋二『日本の出版物流通システム—取次と書店の関係から読み解く』九州大学出版会、191p., 2015年3月。

吉田国光

受賞対象：吉田国光『農地管理と村落社会—社会ネットワーク分析からのアプローチ』世界思想社、202p., 2015年3月。

【奨励賞】

福本 拓

受賞対象：福本 拓・藤本久司・江成 幸・長尾直洋「集合的消費の変質に着目した外国人受入れ意識の分析—三重県四日市市の日系ブラジル人集住地区を事例に—」『地理学評論』88:341-362, 2015年7月。

福本 拓「土地売買の観点からみたエスニック空間の形成過程—大阪市生野区新今里地区における花街から韓国クラブ街への変貌—」『地理空間』8: 197-217. 2015 年 12 月.

Fukumoto, T.: The Persistence of the Residential Concentration of Koreans in Osaka from 1950 to 1980: Its Relation to Land Transfers and Home-work Relationships. Japanese Journal of Human Geography (Jimbun Chiri) 65:475-493. 2013 年 12 月.

II 2015 年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より 2015 年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について矢ヶ崎会計監査より適正であると承認したことが報告された。2015 年度決算案は異議なく承認された。

〔一般会計〕

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

【収入】

単位：円

費目	決算額	予算
繰越金	428,360	428,360
会費	1,021,000	1,107,000
一般会員会費	912,000	988,000
今年度分会費※1	736,000	-
過年度分会費	156,000	-
次年度以降分会費	20,000	-
院生会員会費	102,000	104,000
今年度分会費	94,000	-
過年度分会費	8,000	-
学生会員会費	7,000	15,000
今年度分会費	7,000	-
寄付金	300,000	100,000
地理空間学会学術基金 より繰り入れ	300,000	100,000

雑収入	1,095,352	185,000
機関誌販売	150,352	160,000
ページ超過料金※2	915,000	-
大会参加費	30,000	25,000
合計	2,844,712	1,820,360

※1 一般会員会費納入率 74%

※2 『地理空間』8 巻 1 号, 8 巻 2 号

【支出】

単位：円

費目	決算額	予算
事業費	2,549,613	1,105,000
地理空間印刷費	2,380,788	800,000
8 巻 1 号印刷費	1,268,542	400,000
8 巻 2 号印刷費	1,112,246	400,000
大会・例会運営費	138,641	205,000
若手研究者助成	30,184	100,000
事務関連費	206,866	165,000
通信運搬費	170,588	130,000
消耗品費	34,334	30,000
事務費	1,944	5,000
予備費	0	550,360
繰越金	88,233	0
合計	2,884,712	1,820,360

〔特別会計（地理空間学会学術基金）〕

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

単位：円

収入	決算額	支出	決算額
前年度繰越金	1,402,754	2015 年度一般会計への支出金	300,000
寄付金	70,000	次年度繰越金	1,172,754
合計	1,472,754	合計	1,472,754

III 2016 年度事業計画について

山下清海常任委員長より 2016 年度事業計画について、

「地理空間」第9巻1～3号の刊行, 第10回大会の開催(筑波大学東京キャンパス文京校舎予定), 例会の開催, 学会賞や若手研究者助成による研究奨励, ニュースレターの発行(発表要旨特別号の発行を含む), ホームページとメーリングリストの管理・運営が提案された。2016年度事業計画は異議なく承認された。

IV 2016年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より2016年度予算案について, 収入と支出に関する説明がなされた。2016年度予算案は異議なく承認された。

[2016年度予算案]

(2016年4月1日～2017年3月31日)

単位: 円

収入		支出	
前年度繰越金	88,233	事業費	1,095,000
会費	1,216,000	地理空間印刷費(9巻1号, 2号, 3号)	800,000
一般会員 会費※1	1,088,000		
院生会員 会費※2	114,000	大会・例会 運営費	195,000
学生会員 会費※3	14,000	若手研究者 助成	100,000
寄付金	100,000		
地理空間学 会学術基金よ り繰り入れ	100,000	事務関連費	185,000
雑収入	185,000	通信運搬費	150,000
機関誌販売	160,000	消耗品費	30,000
ページ超過 料金	0	事務費	5,000
大会参加費	25,000	予備費	309,233
合計	1,589,233	合計	1,589,233

※1 272名で計算

※2 57名で計算

※3 14名で計算

V 役員・専門委員会の構成について

山下清海常任委員長より役員および専門委員会(2016年7月1日～2018年6月30日)の構成員について提案がなされた。役員および専門委員会構成員は異議なく承認された。

会 長: 矢ヶ崎典隆(日本大)

会計監査: 田林 明(筑波大名誉), 淡野明彦(奈良教育大名誉)

常任委員: 松井圭介(常任委員長, 筑波大), 呉羽正昭(庶務委員長, 筑波大), 山下亜紀郎(会計委員長, 筑波大), 森本健弘(集会委員長, 筑波大), 堤 純(編集委員長, 筑波大)

評 議 員: 井田仁康(筑波大), 伊藤徹哉(立正大), 小口千明(筑波大), 小野寺 淳(茨城大), 加賀美雅弘(東京学芸大), 兼子 純(愛媛大), 川瀬正樹(広島修道大), 菊地俊夫(首都大学東京), 呉羽正昭(筑波大), 小林岳人(千葉高), 篠原秀一(秋田大), 須山 聡(駒澤大), 平 篤志(香川大), 高橋重雄(青山学院大), 堤 純(筑波大), 中西僚太郎(筑波大), 中村周作(宮崎大), 中村理恵(前橋高), 仁平尊明(北海道大), 根田克彦(奈良教育大), 橋本雄一(北海道大), 平岡昭利(下関市大名誉), 松井圭介(筑波大), 丸山浩明(立教大), 村山祐司(筑波大), 森本健弘(筑波大), 山下亜紀郎(筑波大), 山下清海(筑波大), 山下宗利(佐賀大), 若本啓子(宇都宮大)

<専門委員会>

庶務委員会: 呉羽正昭(委員長), 市川康夫(副委員長), 児玉恵理, 中川紗智, 橋爪孝介

会計委員会: 山下亜紀郎(委員長), 麻生紘平, 猪股泰広, 栗林 慶, 羽田 司, 福井一喜

集会委員会: 森本健弘(委員長), 池田真利子, 石坂 愛, 遠藤貴美子, 坂本優紀, 佐野浩彬, 矢ヶ崎大洋

編集委員会: 堤 純(委員長), 橋本暁子(副委員長), 飯塚 遼, 井口 梓, 石井久生, 磯野 巧, 伊藤徹哉, 大石貴之, 片岡博美, 久木元美琴, 小島大輔, 佐藤大祐,

田中耕市，淡野寧彦，仁平尊明，林 琢也，平井 誠，
福本 拓，藤田和史，山本健太，吉田道代

（書記）：小野澤泰子，本多広樹，益田理広，遊佐 暁，
渡邊瑛季

学会賞選考委員会：村山祐司（委員長），井田仁康，岩間
信之，中村周作，仁平尊明，横山 智

（※2016 年 7 月 1 日～2017 年 6 月 30 日，1 年間）

VI 学会誌の刊行形態について

山下亜紀郎常任委員より機関誌「地理空間」の刊行形態
について，年 2 回の紙媒体での印刷・発行を維持すること，
オーバーチャージを 12 頁までは無料，13～20 頁を 10,000
円，21 頁以降は印刷にかかる実費（1 頁あたり 5,000～
10,000 円程度）に変更すること，特集論文（シンポジウム
報告を含む）は各巻 3 号（年度末発行）としてオンライン
版（電子版）のみの発行とすること，特集論文の企画代表

者（学会員に限る）は編集委員会にゲストエディターとし
て加わり当該論文の査読・編集に携わること，特集論文の
掲載・発行にかかる実費相当額（1 頁あたり 2,000 円程度）
を企画代表者（または論文の著者）が負担すること，各巻
3 号は発行後速やかに，1～2 号は従来通り発行から半年後
に学会ホームページで公開すること，将来的に J-STAGE
への登録・公開を検討することが提案された。これに対し，
紙媒体を購入する大学図書館等に対する 3 号の取り扱い，
希望者への有償での紙媒体の送付の導入，刊行形態の変更
時期について質問・意見がなされた。山下常任委員より，
大学図書館等へは 3 号の発行通知を行う，紙媒体の送付を
検討する，承認が得られれば 2016 年度より変更を行う，
との返答があった。刊行形態の変更は異議なく承認された。

VII その他

とくになし。

2016 年度学会賞受賞者コメント

この度，地理空間学会 2016 年度学会賞の学術賞を受賞された久保倫子会員，秦 洋二会員，吉田国光会員，奨励賞を受
賞された福本 拓会員から受賞のコメントをいただきました。

学術賞 久保倫子会員（岐阜大学）

この度は，地理空間学会学術賞をいただき，誠にありが
とうございました。

対象となった「東京大都市圏におけるハウジング研究
都心居住と郊外住宅地の衰退（古今書院）」は，博士論文
と学振特別研究員（PD）として実施してきた研究からな
る第一部（都心居住編）と大学院時代の巡検を元にした論
文や岐阜大学着任後に取り組んできた都市の空き家問題
などを扱う第二部（郊外住宅地の衰退編）からなり，日本
地理学会の出版助成をいただいて書籍化しました。本書を
振り返りますと，研究者としてやっていくための力をつけ
たいと焦りもがいてきた苦悩の日々を思い出すと同時に，
ご指導いただいた先生方や調査にご協力いただいた方々

に対する深い感謝を感じずにはおれません。

未熟な私を見守り導いてくださった田林明先生をはじ
めとする筑波大学の先生方，院生時代から様々なチャン
スを与えてくださった広島大学の由井義通先生，学振研究員
（PD）時代にお世話になった明治大学の川口太郎先生，
そして就職後は地域科学部の富樫幸一先生をはじめとす
る中部圏の先生方や地理学教室の野元世紀先生と大関泰
宏先生にご指導いただきながら，研究を進めてまいりまし
た。また，岐阜大学では，講義や学生指導を通じて，教員
として学ぶことも多くありました（大分丸くなったように
自負しておりますが，学生に言わせると怖いようです）。

近年は，国際学会で研究上の刺激をいただくことが多く
なってきました。IGU Urban Geography Commission では，

2012 年の若手論文コンペティションに参加して以来、カルガリー大学の Wayne Davies 名誉教授に英語論文のご指導をいただきましたし、現在は IGU Urban 若手部会の世話人をさせていただくようになりました。同コミッション Chair の Celine Rozenblat 先生は、高レベルな業績と文化や人生を楽しむ余裕とを両立させているところが素敵な人生の先輩で、とても尊敬しています。また、国際社会学会の RC43 Housing and the Built Environment では Board member を務めており、建築学、都市計画、社会学の研究

者と交流させていただき、研究の視野が広がってきたように思います。

これまで順調に研究生生活を送ってこられたのも、多くの方に支えていただきチャンスをいただいたお陰です。心から感謝申し上げます。本賞受賞者として一層教育研究に精進し、国内外を問わず地理学の枠を超えて評価されるような居住研究をしていきたいと思います。今後も変わらぬご指導を賜りたく伏してお願い申し上げます。

学術賞 秦 洋二会員（流通科学大学）

この度は、拙著『日本の出版物流通システム-取次と書店の関係から読み解く-』（九州大学出版会）に地理空間学会賞学術賞を頂き、大変有り難く存じます。拙著は私の博士論文をもとにしたものであり、私にとって初めての単著での著書です。本書の内容をごく手短かに申せば、日本の出版物流通システムが持つ空間的な特徴を、特に取次会社（卸売業者）と書店（小売業者）という流通システム内における垂直的企業間関係の視点から明らかにしたものということになろうかと思います。私は修士課程からこのテーマに取り組みはじめたのですが、調査の過程では多くの業界の方にお忙しい時間の合間を縫って聞き取り調査に応じて頂き、また数々の貴重な資料を頂くことができました。本書の内容を構成するのは、多年にわたる関係者各位のご協力、諸先生方の御指導の賜であり、改めて感謝申し上げます。次第です。

今回、思いがけなくこのような晴れがましい賞を頂くこ

とができましたけれども、拙著に足らぬところが多々あることは書いた本人が一番良く承知致しております。その上で、このような貴重な賞を頂けたということは、お褒めを頂いたというよりは、むしろ、これからますます頑張れという叱咤激励の意味であると理解しております。どうぞ皆様方におかれましては、今後とも尚一層の御指導ご鞭撻の程を賜りますよう衷心よりお願い致しまして、受賞のコメントとさせていただきます。この度は本当に有り難うございました。



学術賞 吉田国光会員（金沢大学）

この度は地理空間学会賞・学術賞を賜り、大変光栄に存じます。これまでの学生・教員生活を通じて常に叱咤激励をして下さった多くの方々に深く感謝申し上げます。受賞対象となった拙著の大部分は、修士論文や博士論文、院生時代の野外実習にて取り組んだ成果から構成され

ております。私が単著を刊行できた出発点は、院生時代を通じて指導してくださった田林明先生のお言葉です。修士在学時の私にとっては「単著を執筆する」ということはどこか他人事でした。そして元来、飽きっぽい私は、博士論文の研究対象を修士論文からかけ離れたものにしようとしていました。そんな折に、田林先生から「本を書くこと

を念頭に博論に取り組んでほしい」とお言葉を頂戴したことで、「単著の執筆」が自分事になりました。そこから博士論文には「単著刊行」のファーストステップとして取り組むようになりました。しかし学位取得後も「単著刊行」は「遠い将来にすること」と思っておりまして。また、各事例研究も学術誌に掲載された時点で達成感を得てしまい、それらをまとめるという行為に億劫になっておりました。こんな姿勢の私が単著刊行を現在形で考えるようになったのは、多くの先生方から頂戴したお言葉です。例えば、日本地理学会春季大会の帰りに池谷和信先生から「学術誌に書く事も大切。ただ本として刊行することも地理学界に広く発信するために大切」とお話しいただき、本を書くことの意義をお教えいただきました。また田林先生の退職記念

会の際に、山下清海先生が OBOG に対して「学恩に応えることの一つとして単著を執筆すること」という強いメッセージを寄せられました。こうしたお言葉の数々にいい意味で(?) 流されるなか勢いで執筆し、幸運にも金沢大学の出版助成に採択していただいたことで、刊行させてもらったものが拙著になります。それまでの研究蓄積に対する自己問答を繰り返すなかで執筆できたものではありません。私にご助言をくださった皆様のおかげで刊行に至れた代物にもかかわらず、過分な評価をくださったことに恐縮しております。今度は、本当の意味で自立して執筆できるようになりたいと思っております。この度、賜った賞を励みに精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

奨励賞 福本 拓会員（宮崎産業経営大学）

この度は、地理空間学会奨励賞という栄えある賞を頂戴し、関係者の方々には厚く御礼申し上げます。また、これまで多大なるご支援・ご指導を賜りました先生方にも感謝の念をお伝えたく存じます。

「奨励賞」というには随分年齢がいつている訳ですが、むしろ大学院を出た後の研究を評価いただいたこと、嬉しく思っております。自分の研究者としてのキャリアを振り返ると、特に大学院在籍時は、出身研究室の先輩・後輩や他大学の同年代の院生が素晴らしい研究業績を矢継ぎ早に発表される中で、なかなか成果を出せずに長く思い悩んでおりました。今回受賞対象となった拙稿の中には、当時アイデアとしてはあったものの、実力不足から完成に至らなかったものも含まれています。すぐに成果が出なくても、新たなデータや論文との邂逅、あるいは偶然得た知己などから、急に活路が見出されることはよくあることだと思います。研究にはどうしても競争の側面がつきまといいますが、特に若手の院生の皆さんには、ファースト・インプレッションの大切さと、ある意味で愚直にそれと向き合うことの

大事さをお伝えできれば幸いです。

さて、評価いただいた拙稿のテーマに関しまして、日本のエスニック集団をめぐる状況は、特に 2000 年代以降大きく変化し、それに応じて多数の研究が蓄積されてきました。もちろん、大変面白くて影響力のある研究は重要ですが、堅実な実証の積み重ねを欠くことはできません。移民やエスニック集団に関わるトピックは、とりわけ昨今は政治的イシューになりやすく、ともすれば対立・軋轢を招くこともしばしばです。そういう状況だからこそ、地道なデータ収集や聞き取りに基づく分析の意義は、見過ごされるべきではないと思っています。地理学の方法や分析観点が、この問題に多大な貢献をなしうることを、今後の研究の継続によって微力ながら示していきたいと考えています。

また、「奨励賞」の受賞は、今までの研究へのご評価とともに、これからの取り組みへの叱咤激励でもあるという意味では、身の引き締まる思いもいたします。タイプの派手さはありませんが、若手の方への模範になれるよう、精進したいと思います。今回の受賞、重ねて御礼を申し上げます。

第10回総会報告

日 時：2017年7月1日（土）

場 所：筑波大学東京キャンパス 134

出席者：70名

呉羽正昭庶務委員長の開会の辞のあと、加賀美雅弘会員を議長、中川紗智庶務委員を書記として選出し、総会を開始した。

I 会務報告について

松井圭介常任委員長より会員数(2017年6月8日現在、359名)、第9回大会の開催、第21～22回例会の開催、機関誌「地理空間」第9巻1～3号の刊行、ニュースレター（第25～28号）の発行、ホームページおよびメーリングリスト(jags-ml)の運営、日本学術会議協力学術研究団体の認定(2013年9月24日)、および2017年度学会賞について報告があった。会務報告に関して質問・意見はなかった。

〔地理空間学会学会賞〕

【学術賞】

鹿嶋 洋

受賞対象：鹿嶋 洋『産業地域の形成・再編と大企業』原書房、236p., 2016年3月。

久木元美琴

受賞対象：久木元美琴『保育・子育て支援の地理学』明石書店、224p., 2016年10月。

山下亜紀郎

受賞対象：山下亜紀郎『水環境問題の地域的諸相』古今書院、186p., 2015年2月。

山下亜紀郎編『土地利用でみるアジアの都市化と自然環境』筑波大学出版会、162p., 2016年3月。

【奨励賞】

秋元菜摘

受賞対象：秋元菜摘. 富山市のクラスター型コンパクトシティ政策と郊外のアクセシビリティ— 婦中地域におけるシミュレーション—. 地理学評論 87: 314-327, 2014年。

秋元菜摘. 一極集中型コンパクトシティ政策の有効性に関するアクセシビリティのシミュレーション分析—青森市における人口の集約化と公共交通の多頻度化—. 地学雑誌 125: 523-544, 2016年。

福井一喜

受賞対象：福井一喜. 群馬県草津温泉の宿泊業におけるインターネット利用の動態—宿泊施設の経営戦略に着目して—. 地理学評論 88: 607-622, 2015年。

福井一喜・金 延景・上野李佳子・兼子 純. 地方都市の中心商店街における新規事業の創出—長野県佐久市岩村田本町商店街の事例—. 都市地理学 11: 59-70, 2016年。

福井一喜. 東京のベンチャーIT企業をめぐる情報技術者コミュニティの役割—東京の大規模会合の分析を通して—. 経済地理学年報 62: 87-101, 2016年。

II 2016年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より2016年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について田林 明会計監査、淡野明彦会計監査より適正であると承認したことが報告された。2016年度決算案は異議なく承認された。

〔一般会計〕

(2016年4月1日～2017年3月31日)

【収入】

単位：円

費目	決算額	予算
繰越金	88,233	88,233
会費	1,050,000	1,216,000
一般会員会費	940,000	1,088,000
今年度分会費※1	712,000	-
過年度分会費	208,000	-
次年度以降分会費	20,000	-
院生会員会費	102,000	114,000
今年度分会費※2	92,000	-
過年度分会費	10,000	-
学生会員会費	8,000	14,000
今年度分会費※3	5,000	-
過年度分会費	3,000	-
寄付金	59,936	100,000
地理空間学会学術基金 より繰り入れ	59,936	100,000
雑収入	848,500	185,000
機関誌販売	154,000	160,000
会員追加販売※4	10,000	-
購読機関誌販売	144,000	-
ページ超過料金※5	675,000	-
大会参加費※6	19,500	25,000
合計	2,046,669	1,589,233

※1 178名で計算(納入率：65%)， ※2 46名で計算，

※3 5名で計算

※4 会員(3,000円，2件)，非会員(4,000円，1件)

※5 『地理空間』9巻1号，9巻2号

※6 参加者 一般会員38名(500円×38人)

院生非会員1名(500円×1人)

【支出】

単位：円

費目	決算額	予算
事業費	1,610,010	1,095,000
地理空間印刷費	1,411,104	800,000
9巻1号印刷費	959,946	-

9巻2号印刷費	451,158	-
9巻3号印刷費	0	-
大会・例会運営費	138,970	195,000
学会賞用経費	29,160	-
印刷費	75,940	-
雑務	1,000	-
招待講演交通費	6,000	-
巡検準備費	26,870	-
若手研究者助成	59,936	100,000
事務関連費	154,444	185,000
通信運搬費	119,860	150,000
消耗品費	33,396	30,000
事務費	1,188	5,000
予備費	0	309,233
繰越金	282,215	-
合計	2,046,669	1,589,233

〔特別会計(地理空間学会学術基金)〕

(2016年4月1日～2017年3月31日)

単位：円

収入	決算額	支出	決算額
前年度繰 越金	1,172,754	2016年度一 般会計へ の支出金	59,936
寄付金	0	次年度繰越 金	1,112,818
合計	1,172,754	合計	1,172,754

Ⅲ 2017年度事業計画について

松井圭介常任委員長より 2017年度事業計画について，「地理空間」第10巻1～3号の刊行，第11回大会の開催(2018年6月 駒澤大学予定)，設立10周年記念行事の企画立案，例会の開催，学会賞や若手研究者助成による研究奨励，ニュースレターの発行(発表要旨特別号の発行を含む)，ホームページとメーリングリストの管理・運営が提案された。2017年度事業計画は異議なく承認された。

IV 2017 年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より 2017 年度予算案について、収入と支出に関する説明がなされた。設立 10 周年記念行事の予算はどこから支出するのか、会費収入を納入率 100%で予算計上するのは非現実的ではないか、ページ超過料金を予算計上しても良いのではないかと、という 3 点について質問・意見がなされた。山下会計委員長より、設立 10 周年記念行事は 2018 年度開催であるから 2017 年度予算からは支出しない、会費収入を納入率 100%で計上するかわりに予備費を多めにとることで対応している、長い論文を歓迎するという本学会の姿勢とペナルティとしてのページ超過料金の体系はそもそもそぐわないため名称の変更を含め今後検討していく、との返答があった。2017 年度予算案は異議なく承認された。

[2017 年度予算案]

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

単位：円

収入		支出	
前年度繰越金	282,215	事業費	1,140,000
会費	1,272,000	地理空間印刷費（10 巻 1 号, 2 号, 3 号）	800,000
一般会員 会費※1	1,132,000	大会・例会 運営費	240,000
院生会員 会費※2	128,000	若手研究者 助成	100,000
学生会員 会費※3	12,000		
寄付金	100,000	事務関連費	165,000
地理空間学会学術基金より繰り入れ	100,000	通信運搬費	120,000
雑収入	192,000	消耗品費	20,000
機関誌販売 ※4	160,000	事務費	25,000
ページ超過 料金	-		

大会参加費 ※5	32,000	予備費	541,215
合計	1,846,215	合計	1,846,215

※1 283 名で計算, ※2 64 名で計算,

※3 12 名で計算, ※4 20 機関で計算

※5 参加者 一般会員 50 名 (500 円×50 人)
非会員一般 (1,000 円×5 人)
非会員院生 (500 円×4 人)

※6 一人 1 万円×3 名

V 役員・専門委員会の構成について

松井圭介常任委員長より役員および専門委員会（2016 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日）の構成員について提案がなされた。役員および専門委員会構成員は異議なく承認された。

会長：矢ヶ崎典隆（日本大）

会計監査：田林 明（筑波大名誉）、淡野明彦（奈良教育大名誉）

常任委員：松井圭介（常任委員長，筑波大）、呉羽正昭（庶務委員長，筑波大）、山下亜紀郎（会計委員長，筑波大）、森本健弘（集会委員長，筑波大）、堤 純（編集委員長，筑波大）

評議員：井田仁康（筑波大）、伊藤徹哉（立正大）、小口千明（筑波大）、小野寺 淳（茨城大）、加賀美雅弘（東京学芸大）、兼子 純（愛媛大）、川瀬正樹（広島修道大）、菊地俊夫（首都大学東京）、呉羽正昭（筑波大）、小林岳人（千葉高）、篠原秀一（秋田大）、須山 聡（駒澤大）、平 篤志（香川大）、高橋重雄（青山学院大）、堤 純（筑波大）、中西僚太郎（筑波大）、中村周作（宮崎大）、中村理恵（前橋高）、仁平尊明（北海道大）、根田克彦（奈良教育大）、橋本雄一（北海道大）、平岡昭利（下関市大名誉）、松井圭介（筑波大）、丸山浩明（立教大）、村山祐司（筑波大）、森本健弘（筑波大）、山下亜紀郎（筑波大）、山下清海（立正大）、山下宗利（佐賀大）、若本啓子（宇都宮大）

＜専門委員会＞

庶務委員会：呉羽正昭（委員長），秋山千亜紀（副委員長），
市川康夫，児玉恵理，中川紗智，橋爪孝介

会計委員会：山下亜紀郎（委員長），麻生紘平，猪股泰広，
栗林 慶，羽田 司，福井一喜

集会委員会：森本健弘（委員長），池田真利子，石坂 愛，
遠藤貴美子，坂本優紀，佐野浩彬，矢ヶ崎太洋

編集委員会：堤 純（委員長），橋本暁子（副委員長），飯
塚 遼，井口 梓，石井久生，磯野 巧，伊藤徹哉，大
石貴之，片岡博美，久木元美琴，小島大輔，佐藤大祐，
田中耕市，淡野寧彦，仁平尊明，林 琢也，平井 誠，

福本 拓，藤田和史，山本健太，吉田道代

（書記）：小室 譲，本多広樹，益田理広，遊佐 暁，
渡邊瑛季

学会賞選考委員会：村山祐司（委員長），井田仁康，岩間
信之，中村周作，仁平尊明，横山 智

（※2017 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日，1 年間）

Ⅵ その他

松井圭介常任委員長より，設立 10 周年記念行事案をメ
ールにて募集するとの告知があった。また，堤 純編集委
員長より，地理空間への積極的な投稿が呼びかけられた。

2017 年度学会賞受賞者コメント

この度，地理空間学会 2017 年度学会賞の学術賞を受賞された久木元美琴会員，山下亜紀郎会員，奨励賞を受賞された秋元菜摘会員から受賞のコメントをいただきました。

学術賞 久木元美琴会員（大分大学）

このたびは，拙著『保育・子育て支援の地理学』（明石書店）に本学会学術賞を賜り，光栄に存じます。保育や子育て支援というテーマを地理学的に研究するという挑戦を始めてから約 10 年がたち，まがりなりにも研究を続けることができ，今回こうして栄えある賞を頂戴できましたのも，様々な形で励ましと支え，そして刺激をくださる周囲の先生方，学会の皆さまのお蔭です。この場を借りて，心よりお礼申し上げます。

私が最初にこのテーマの論文を学術誌へ投稿した 2000 年代半ばには，社会的には待機児童問題が注目されていましたが，いわゆる施設配置論ではない保育所の研究は日本の地理学会では珍しく，大御所の先生方からも「大事な研究ですから頑張ってくださいね」と優しく（時には厳しく）励ましていただいたことを，今でも大事に胸に刻んでおります。新しいテーマで，現象自体の変化や制度的変化がめまぐるしく，もちろんそれ以上に私の力不足のために，毎回の事例調査では，どのように地理学的研究として意味の

ある知見を引き出せるかと試行錯誤しながら現地に赴き，フィールドノートを前に思い悩んでいたように思います。そのような試行錯誤の連続でしたので，「保育・子育て支援の地理学」というタイトルで上梓した拙著に対し，今回このような賞を賜りましたことが格別に嬉しく，感謝の気持ちでいっぱいです。

また，このテーマを通じて，地理学分野に加え隣接分野の研究者の方との交流が生まれたことは，私にとって大きな喜びでもありました。拙著の出版が実現したのは，教育学を中心とした他分野の研究者が集まる研究会で研究紹介をした際に，出席者の一人であった編集者の方からお声がけいただいたことがきっかけでした。いわゆる「他流試合」では，地理学の前提や問題関心が共有できず冷や汗をかくことも多くありますが，いろいろな場所で自分の研究を話し，その意義を考え続ける機会に恵まれたことは大変幸運なことであったと思います。私もまだまだ未熟ではありますが，私よりも若い研究者の方には，学会内外の多くの場所でご自身の研究成果を話す機会にぜひチャレンジ

していただきたいと思います。

同時に、拙著の出版はある研究の「完結」ではなくむしろ「始まり」であり、拙著をきっかけにお話しさせていただく他分野の研究者の反応をうかがっても、現代的な課題について地理学から発信し続けていく必要性が大きいことを感じております。研究枠組の精緻化や政策提言の可能

性など取り組むべき課題は多くございますが、今回の受賞は「今後さらに精進するように」という大きな励ましを頂戴したものと理解し、受賞者の名に恥じぬ研究ができるよう今後も挑戦していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。このたびは、本当にありがとうございました。

学術賞 山下亜紀郎会員（筑波大学）

この度は地理空間学会学術賞を頂きありがとうございます。このような賞をいただいたこともさることながら、院生時代からの研究成果を1冊の書籍として刊行できたこと自体、田林明先生はじめ多くの方々のご指導の賜物と感謝申し上げます。私はこれまで一貫して1つのテーマに取り組んできたわけではなく、水環境・水資源という共通項はあるものの、都市内用水路、流域水需給、観光、防災などいろんなことに手を付けてきて、これらを1冊の本にまとめるのは難しいとずっと考えていました。そんな私に本を出すきっかけを与えてくれたのは、学生からの授業アンケートの回答でした。「先生の講義は水環境問題に関する各論が並んでいるだけで総論にあたる話がない。」確かにそうだと気づかされて、自分が今までバラバラにやってきた研究を整理して体系立ててみようと考えました。おかげでその翌年からは総論にあたるような講義も1回するようになったのですが、そうやって自分の研究が整理できると、1冊の本としてまとめたくなってきました。その結果できあがったのが『水環境問題の地域的諸相』です。

もう1冊の『土地利用でみるアジアの都市化と自然環境』は、また全然別の研究成果です。総合地球環境学研究所の研究プロジェクトの一部として取り組んだ共同研究の成果で、水環境問題に触れているところもありますが、土地利用、地形、気候も含めてアジア7都市の発展と自然環境との関係を分析しています。本書の半分くらいは私以外の方たちに執筆いただいたものであり、それらの方々および7都市での現地調査でお世話になった方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

現在取り組んでいる研究は、ブラジル熱帯半乾燥地域における灌漑農業や、韓国地方都市における河川環境復元による地域活性化などです。テーマに一貫性がないのは相変わらずですが、一方で最初に出した本の構成が、研究者としての私の守備範囲を画定しているとも言えますので、バラバラながらもその守備範囲の中でテーマを見つけて、これからもできるだけいろんな地域に足を運びたいと考えています。今後とも会員の皆様からのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

奨励賞 秋元菜摘会員（東京大学）

この度は地理空間学会奨励賞を賜り、誠に有難うございました。拙稿「富山市のクラスター型コンパクトシティ政策と郊外のアクセシビリティ—婦中地域におけるシミュレーション」（地理学評論 87: 314-327）と、「一極集中型コンパクトシティ政策の有効性に関するアクセシビリティのシミュレーション分析—青森市における人口の集約

化と公共交通の多頻度化」（地学雑誌 125: 523-544）は、主に現所属先の東京大学人文地理学教室の先生方・院生諸氏に御指導いただきましたが、同時に、地域調査や分析手法は母校である筑波大学地理学分野の先生方に教えていただいた成果にございます。

筑波大学大学院で地理学を学ぶことは私事により適いませんでしたが、折に触れて、学会や研究会を通して先生

方をはじめ研究生・院生諸氏にご指導を賜る機会に恵まれました。改めまして、心より御礼を申し上げます。そして本受賞と同時期に、筑波大学で御指導いただきました卒業論文を、「筑波研究学園都市中心部における歩行環境の評価」（地理空間 10: 1-15）として貴学会誌に掲載し、これまでの院生時代のご報告を申し上げることができました

ことは何よりの歓びにございます。

研究者になるためには更なる研鑽が必要ではございますが、地理学的研究の意義を少しずつ学び続けてゆきたく考えております。引き続き、ご指導を賜りましたら幸いにございます。末筆となりますが、地理空間学会の更なる発展をお祈り申し上げます。

学会からのお知らせ

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第10巻1号に同封した振込用紙でお支払ください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

〔年会費の振込先〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ” ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申

し上げます。

〔地理空間学会学術基金の内容〕

○名 称：地理空間学会学術基金

○目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：1口2万円（何口でも可能です）

〔振込方法〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ” ツカイカ” クシ” ユツキ
キン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研

究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。

コラム「わたしのフィールドから」

児玉恵理（筑波大・院生）

私のフィールドのひとつである埼玉県深谷市(図1)は、「深谷ねぎ」の産地として、ご存知の方もいるかと思います。遠距離輸送が難しかった大正時代に、食味の優れたねぎを、深谷駅から貨車を仕立てて東京市場に送り込んだことで、その名声は一気に高まりました。深谷駅から出荷されたために、駅名をとって「深谷葱」の商標がつけられました（ねぎのにおいが嫌がれ、熊谷駅・本庄駅からねぎを輸送する許可が得られず、深谷駅のみが許可したそうです）。その当時、出荷されたねぎは、利根川沿いの深谷市、本庄市、熊谷市の妻沼、群馬県の一部で栽培されたものでした。

深谷市では、「深谷ねぎ」の産地偽装を契機として、2002年以降、行政とJAが積極的にブランド化への動きを開始しました。しかし、そのブランド化への動きの中で、利根川沿いの沖積低地で栽培されるねぎのみを「深谷ねぎ」としていたもの（写真1）が、市町村合併やJAの合併など

の影響を受けて、荒川沿いの洪積台地で栽培されたねぎも「深谷ねぎ」に含めるようになっていきました。このように、「深谷ねぎ」のブランド化をめぐり、地域内で温度差が生じています。今後も、深谷市における「深谷ねぎ」のブランド化の動向に注目していきたいと思います。



写真1 深谷市におけるねぎ栽培景観

(2014年9月 児玉撮影)

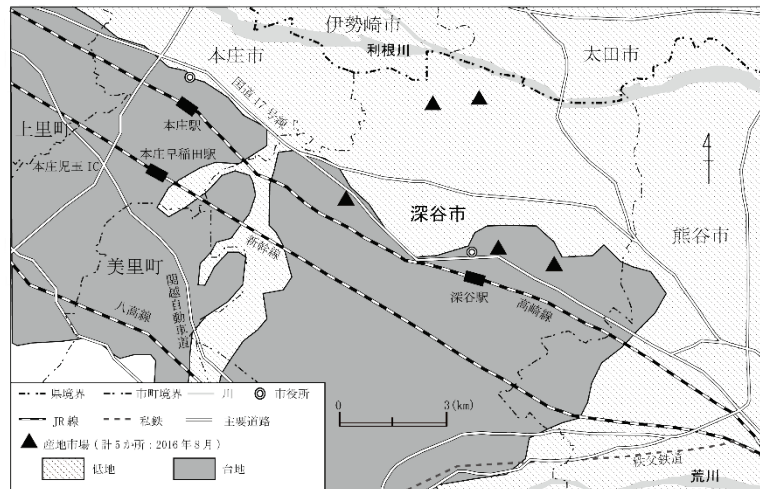


図1 研究対象地域

寄付お礼

地理空間学会学術基金へ匿名を希望された会員の方から寄付を賜りました。ありがとうございました。

編集後記

夏も終わり、灯火親しむ頃となりました。本格的な寒さに向かう時節、風邪など召されぬようご自愛ください。
 ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト(jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp)を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第30号

発行日：2017年10月11日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>